



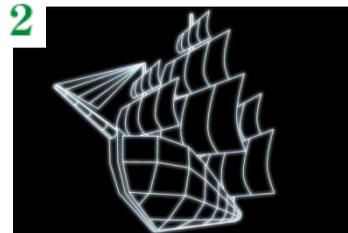
## 天の川のひとしずく 夜空はどこまで続いているのだろうか？

澄みわたるボーカルで、『星空・宇宙・自然・旅』などを題材に、生命の大切さや生きることの素晴らしさを歌うアクアマリンを案内役に、『夜空はどこまで続いているのか？』を探る宇宙の旅が繰り広げられます。想像の宇宙船に乗り、地球を出発。地球から月へ、太陽へ、そして太陽系に視野が広がり、雄大な銀河系が姿を表します。「宇宙」に抱かれ、その大きさを感じ、その中で自分たちの位置を知る—。多くの星が渦まき銀河系を旅しながら、宇宙のスケールが体感できます。想像の宇宙船が地球に戻ってきた時、『夜空はどこまで続いているのだろうか？—』この疑問は解けているのでしょうか？

投影時間 25分 対象 小学校中学年～一般  
登場人物 ミマス&サチコ (アクアマリン/語り・歌)  
素材 スライド/38枚 VTR/12分



1 星空の中には上弦の月。砂浜が広がる海岸。並んで座っているミマスとサチコ。「空ってどこまで続いているのかしら」「どこまでも。星空って宇宙を見ているようなものだから」ミマスはサチコに、まず、地球と月の距離を教えます。



2 「実際に宇宙の果てまで行くことはできないから、距離も測れないけど、いま分かっているイメージの世界の中を、冒険する事はできるでしょ？」ふたりは宇宙の広さを実感するため、想像の船に乗って、星空へと出発します。



3 やがて、月が近づいてきました。「月から地球にケータイをかけると、電波が届くまでに1秒チョット、返事が戻って来るまでに1秒チョット、結局2秒以上かかるんだ」「宇宙の広さを感じるのに、これが結構重要なんだよ」



4 次は、太陽に近づきます。「太陽は、自分でエネルギーを出して光ってるんだよ」「電波と光は同じものだから、光が地球に届くまでにどのくらいかかるかで、距離がわかるんだ」光の速度で地球へ向かうと、8分かかりました。



5 今度は太陽系から遠ざかってみます。地球から太陽系を斜め上(黄道面に対して20度ほど)から見る角度に上昇。「太陽の光が冥王星に届くまでに5時間半くらいかかるんだよ」「その距離では、友だちを作れないわ」とサチコ。



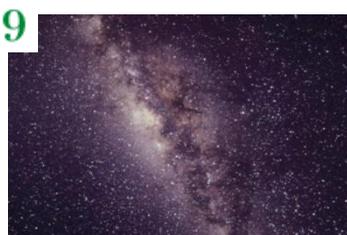
6 太陽系惑星の軌道線を次々通り越し、地球近くまで戻ります。「夜空って、遠い世界が見えていたのね。素敵ね」空にはシリウス。「シリウスは地球に近いから明るく見えるけど、それでも太陽系の星よりずっと遠いんだ」



7 宇宙船はシリウスに進路を取って進み出します。「景色があまり動いてないけど」「これでも光の速さの900万倍のスピードで飛んでるんだけど、星座の星の間はそれ以上に離れているから、多少動いてもわからないんだよ」



8 シリウスに接近。周回します。「自分で光ってない？」「星座の星というのは、太陽と同じように、自分で光ってるんだ」シリウスを離れ、ベテルギウスへ。「エネルギーが切れかかっている星で、いつ爆発してもおかしくないんだ」



9 再び、宇宙船は出発。美しく、ゆったりと回転している銀河系の姿が見えてきました。「なんて美しい景色なんでしょう」「天の川だよ。たくさんの太陽が集まってできてるんだ」「この景色...なんか懐かしい感じがしてくるわ」



10 地球に戻り、浜辺で星を見上げるふたり。「あれ、ベテルギウスね。ホントに爆発するの？」「いつかはね。それがわかるのは500年後だけど」「500光年も離れているのね」広い宇宙に包まれ幸せな気分になるのでした。